

年頭のご挨拶

2018 年度クロマトグラフィー科学会会長

大塚 浩二

クロマトグラフィー科学会会員各位におかれましては健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。平素から本学会の活動に対してご理解・ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。クロマトグラフィー科学会は、1989 年（平成元年）の発足以来、着実に歩みを続け、来年には設立 30 周年という大きな節目を迎えます。

私は、前会長・金澤秀子先生の前任として 2014・15 年度に会長を務めさせていただきましたが、この度再度会長の任につかせていただくこととなり、誠に身の引き締まる思いで新たな年明けを迎えております。4 年前の年頭挨拶でも申し上げたことですが、分離科学におけるクロマトグラフィーの重要性は改めて申し上げるまでもなく、基礎から応用までを含めた学術領域として、また実践手法として、より一層クロマトグラフィー研究が発展することを目指して本学会の運営を行って参りたいと考えております。

本学会の活動の柱は、年二回の学術会議（シンポジウムおよび科学会議）の開催、会誌 CHROMATOGRAPHY の発行、並びに学会賞・奨励賞等各種褒賞の授与にあります。これらの中で、CHROMATOGRAPHY 誌の改革を一つの大きな課題として位置付け、2014 年度の会長就任時前後から同誌のインパクトファクター（IF）取得を目指し、浜瀬編集委員長、齊戸事務局長（副編集委員長）、植田 Web 担当委員を中心とした編集委員会主導の下で様々な改善策を講じて参りました。その成果として CHROMATOGRAPHY 誌は現在クラリベイト・アナリティクス社の Emerging Sources Citation Index (ESCI) 掲載誌となるに至り、IF 取得もはや単なる夢物語ではなくなったと考えております。とは言え、現在の発刊水準を維持していくことは決して容易なことではなく、会員の皆様の積極的なご協力が不可欠です。会員の皆様におかれましては、このような取り組みにご理解いただくと共に、IF 取得を現実のものとするべく CHROMATOGRAPHY 誌への積極的なご投稿をお願い致したく存じます。あわせて、論文ご執筆の際には CHROMATOGRAPHY 誌掲載論文を積極的に引用していただきますようお願い申し上げます。

本学会は、歴代の会長・執行部の優れたイニシアティブの下、会員の皆様のたゆまぬ努力とご協力によって発展してきたことは言うまでもありません。その基本路線を踏襲し一層発展させると共に、幅広い研究分野との融合・協力関係の強化を図り、本学会のプレゼンスを一層高めることが私に再度課せられた使命であると認識し、微力ながら本学会のさらなる発展のために努力する所存でございます。皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。